

令和4年度武蔵村山市立第八小学校経営方針

学校名 武蔵村山市立第八小学校 校長名 牧 一彦

教育目標

人権尊重の基盤に立ち、創意に満ちた教育活動の推進に総力をあげ、人間性豊かで思いやりがあり、21世紀を逞しく生き抜く国際感覚豊かな子供を育てる。

- ◎考える子 きたえよう頭を
- 思いやりのある子 みがこう心を
- やりとげる子 つよくしよう心と体を
- 礼を重んずる子 あらわそう思いを
- 行動目標 わけをそえて話すことができる子

1 目指す特色ある学校像

自分大好き 友達大好き 学校大好き 八小の子 (目指す児童像)

人間力を高め、夢と希望を育み、笑顔あふれる学校 (目指す学校像)

苦楽を共にし、子供のために力を尽くす チーム八小 (目指す教師像)

- ① 地域を愛し、地域に開かれ、地域と共に歩む学校 (コミュニティ・スクール)
- ② 午前5時間制により、元気、根気、本気、勇気(4つの気)を育む活力のある学校
- ③ 礼儀やマナーを身に付け、明るい挨拶やそっと会釈のできる温かみのある学校
- ④ 「楽しい授業」「わかる・できる授業」「考える授業」を通し、確かな学力を育てる教育力のある学校
- ⑤ 子供が学校を誇りに思い、保護者・地域に愛され、信頼される学校

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

- 研究開発学校として創設した「徳育科」の実践を通して、児童の心の教育を充実させ、確かな実践力の継続を図る。(平成31年度～33年度文部科学省教育課程特例校)
- 午前5時間制及びCSにより、生み出される時間及び人的支援を、児童の学力の向上及び人間力の育成に、最大限に生かす方法を模索し、実践に結び付ける。
- 「人材育成部」の活性化を推進し、若手教員の組織的な育成を図る。
- 全国学力学習状況調査(算数科)における平均正答率を、令和5年度までに全国平均に引き上げる。

(2) 本年度の目標

- ①全教育活動を徳育科の実践の場と捉え、校内外での「挨拶・礼儀正しきの励行」を推進する。また、授業規律「教室の中で話しているのは一人」の更なる徹底を図る。
- ②令和4年度文部科学省国立教育政策研究所教育課程実践検証協力校として、「一人一研究」を含めた算数科を中心とした校内研究をさらに充実させ、教員全員の授業実践力向上を図る。(校内OJTの充実、授業改善の推進)
- ③知識・技能の確実な定着と思考力・判断力・表現力の向上のために、(1)「八小授業スタンダード」の実施率向上、(2)習熟タイムの効果的活用、(3)基礎学力向上システム(暗誦、計算)の定着、(4)なるほど塾及び錬成塾の充実を図る。
- ④GIGAスクール構想を推進し、PC端末等を授業、家庭学習、保護者連携に活用する。
- ⑤地域・家庭との連携を深め、児童の健全育成、安全対策の推進を図る。

3 目標達成上の課題

- ① 一人一人の教員の特性や専門性を生かした授業改善と指導力向上
- ② 学年主任や各組織の長を任せられるミドルリーダー及び、若手教員の組織的育成
- ③ 児童の生活上・学力上・健康上の課題の早期発見と支援体制の充実
- ④ 「八小授業スタンダード」の浸透と「若手教員育成」に向けた組織的対応

4 経営の具体策

- (1) 「学力向上」、「人権感覚・国際感覚の醸成」、「体力の向上」を図る。また、「礼儀・マナーの励行」を推進する。併せて、校内研究及び校内OJT等を充実させ「教員の指導力向上」を図る。
 - ① 行動目標「わけをそえて話す」と「八小授業スタンダード」に基づく授業改善を推進する。
 - ② 若手教員研修指導教官を中心として「人材育成部」を活用し、組織的に指導力育成を図る。
 - ③ 全教員の参加の校内研究の研究授業を年6回(各学年1回)行う。また、校内研究のテーマ・趣旨を踏まえた「一人一研究」の研究授業を少なくとも一人2回ずつ実施する。
 - ④ 少人数算数は、習熟度別指導(2学級3展開・3学級4展開等)を基本に2年生以上で実施する。
 - ⑤ 学力向上委員会を中心に、数年後を見据えた学力向上策(計画)を立案し、実施する。
 - ⑥ 徳育科を中心に全教育活動で人権感覚を育て、いじめのない学校、体罰のない学校を目指す。
 - ⑦ 保健指導の充実、生活リズムカード等を通して「早寝・早起き・朝ご飯・歯磨き」を徹底する。
 - ⑧ 学級全員遊び、異学年の兄弟学級遊び(百人一首等)や体力向上を目指した活動(持久走・なわとび等)の年間計画を立て、確実に実施し、豊かな人間関係づくりや体力の向上を図る。
 - ⑨ 地域の諸機関と連携し、福祉に関する授業や交流活動を計画・実施する。
 - ⑩ 習熟タイム、八小なるほど塾、八小錬成塾を実施し、主に数学的に考える資質・能力を育む。
 - ⑪ 読書活動の活性化、読書量の倍増を図り、活字に親しむ児童を育成する。
 - ⑫ 以下の活動を課外クラブと位置付け、「体力の向上」「人間力の醸成」を図るとともに大会出場等に備える。(ドッジボール、相撲、サッカー、百人一首、吹奏楽、バトン)
 - ⑬ 1人1台端末を「日々の授業」、「家庭学習」、「保護者連携」等に効果的に活用する。
 - ⑭ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図りつつ、学びを止めない方策を模索・実践する。
 - ⑮ 昨年度の水難事故を踏まえ、「もぐる」「浮く」の指導、「着衣泳」の充実を図る。
- (2) 教育課題を常に明確にし、主幹・主任教諭を中心として、組織的・計画的に課題解決を図る。
 - ① 特別支援教育の推進を図り、児童に関する諸問題(いじめ、不登校、学力不振等)を生活指導夕会や生活指導全体会、定期的な特別支援校内委員会で共通理解し、早期発見・対応に努める。
 - ② OJT夕会を年16回計画的に実施し、意図的・計画的に若手教員の育成を図る。
 - ③ 「コミュニティ推進部」の役割を明確にし、地域運営学校としての円滑な運営を目指す。
 - ④ 共同事務の実施及び、校務支援部の活性化を図り、学校経営全般に係わる業務を組織的に行う。
 - ⑤ 会議の精選と電子化、教材やデータの共有化、教員の年休取得等を推進し、働き方改革に努める。
 - ⑥ 「仕事は厳しく、人間関係は温かく」を合い言葉に、ハラスメントのない職場環境を整える。
- (3) 保護者、教育支援ボランティアを積極的に活用し、協同的活動を推進する。
 - ① 「ふれっチャ・クラブ(3年生以上)」(年15回実施)の活性化を図り、社会性と人間性を育てる。
 - ② 伝統文化教育、ボランティア活動を推進し、役に立つ人になろうとする心や国際感覚を育む。
 - ③ 読み聞かせや、算数習熟等を保護者やボランティアとの連携を図りながら推進する。
 - ④ 地域行事・活動等に、子供と共に積極的に参加し、地域との連携・協力関係を深める。
 - ⑤ 青少対、安全ボランティア、PTAとの連携を深め、登下校や地域での安全指導を強化する。

小中一貫教育推進に向けた方策

- (4) 五中・一中校区の小中学校との連携を深め、「9年間を見通した小中一貫教育の推進」を図る。
 - ① 五中校区合同研究の研究主題を定め、目指す生徒像を育成するための手立てを追究する。
 - ② 小中各校同士の交流をさらに推進し、異校種の教員による特別授業を試行する。
 - ③ 五中校区スタンダードの実践を通して、より実効性の高い連携教育の在り方を追究する。

5 年度末のチェックポイント

- ① 学校評価(自己評価、児童・保護者による評価、学校関係者評価)での年次比較での向上
- ② 週の指導計画を通しての指導、授業観察チェックリストの活用による授業力の向上
- ③ 国・都・市実施の学力調査、各学級の通知表評価、新体力テスト、漢字検定の結果の向上